



photo
by
Okura

AKITA PHYSICAL THERAPY ASSOCIATION NEWS



01. 告知 重大発表
02. 秋田県理学療法士学会開催
03. 表彰報告
04. オリ☆パラ対策委員会に注目！
05. ご存知ですか？パラスポーツ ボッチャ編
06. 研究会活動報告・部長だより・会長のうごき
07. PTの本棚 運動器編

2019
7 - 8
Jul. Aug.
vol.189

発行：公益社団法人 秋田県理学療法士会
会長：菅原 慶勇 編集：加賀屋勇氣 印刷：(株)秋田情報プリント
事務局：〒010-0921 秋田市大町1丁目2-40
TEL・FAX 018-867-1804 E-mail akitapt-home@ptakita.org
ホームページ <http://www.ptakita.org>

告知 重大発表

① 変わります！新人教育プログラム！

協会ニュースでも報じられているように、現在新人に対して行われている新人教育プログラムは、来年度末をもって終了となり、新たな生涯学習プログラムが施行されることになりました。

この新生涯学習プログラムは、新入会員の知識、基礎力、技術を底上げすることを目標としております。

現行の新人教育プログラムは15単位の取得で終了でしたが、新生涯学習プログラムは、前期・後期研修を合わせると5年にわたり積み上げるプログラムとなっております。「登録理学療法士」制度をあらたに設け、プログラム修了者は「登録理学療法士」の資格が与えられます。現在新制度へ移行するにあたり、経験年数をどこまで加味するか検討されている最中です。少なくともどの世代でも、現行の新人教育プログラムを修了しておくことは、何らかの措置がある物と思われるので、来年度末までに修了することをおすすめします。

また秋田県理学療法士会では、希望する会員がいらっしゃれば全会員が新人教育プログラムを終了できるよう、現在予定している新プロ研修会とは別に短期間で取得できるように企画したいと考えております。



② 臨床実習における学生指導者には研修会の受講が必要となります

昨年（平成30年）10月、「理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則」が一部改正され、これに伴い、新たに「理学療法士作業療法士養成施設指導ガイドライン」が定められました。この改正の主たる目的は、臨床実習における学生指導のあり方を見直すことにあります。そのために、2020年以降に入学した学生の臨床実習指導者は、今後、厚生労働省の指定した研修会を受講しなければならなくなりました。現在、秋田県においても、来年2月（予定）の研修会開催に向けて準備を進めています。（次号に続く）

（仮名）臨床実習指導者講習会協議会 佐竹将宏

第24回 秋田県理学療法士学会 開催

ソーシャル・キャピタルの醸成を目指して
～ 地域の力を高めるために理学療法士ができること～



昨年に続き6月開催となった秋田県理学療法士学会。今年は11の一般演題と、2つの特別講演、各研究会による教育講演という構成で開催されました。今年も写真とともに学会の様子をレポートします。

第24回秋田県理学療法士学会を終えて

6月22日（土）に開催されました学会の準備・運営にあたりまして、学会企画班や事務局の皆様から多大なるご尽力を賜り、大盛況のうちに幕を閉じることができました。また、一般演題にご登録いただいた11名の演者の皆様、座長を務めていただいた皆様、そしてご参加いただいた179名の皆様、本当にありがとうございました。この場をお借りして御礼申し上げます。

今学会のテーマは、高齢化率、人口減少率ともに日本一のこの秋田県で、お互い様の気持ちで支え合う気風を高めていきたいという想いを込めまして、「ソーシャル・キャピタルの醸成」といたしました。人との繋がりは自身の想いから始まり、一人ひとりの想いが水紋の如く重なり合うことで豊かさを増すと感じております。今学会が皆様にとってその一助になったのであれば、冥利に尽きます。大変貴重な経験をさせていただいたことに改めて感謝申し上げます。来年もぜひ学会でお会いしましょう！



第24回 秋田県理学療法士学会 大会長 大田 健太郎

特別講演レポートです。今回の学会テーマにちなんだ浅田先生、大田先生のご講演は、日常臨床の枠を飛び越えた、非常にマクロな視点を私たちに授けてくださいました。

特別講演 1

ソーシャルキャピタルの本質とその捉え方

講師：浅田 菜穂 氏（了徳寺大学 健康科学部）

今回、6月22日に行われた第24回秋田県理学療法士学会に参加させていただきました。特別講演1では「ソーシャルキャピタルの本質とその捉え方」と題して了徳寺大学の浅田菜穂先生よりご講演いただきました。

「ソーシャルキャピタル」と言う言葉を私は初めて伺いましたが、講演を聞いて回復期・慢性期リハに従事している自分も間接的に関わっていたことがわかりました。近年では予防理学療法がトピックスとなっていますが、ソーシャルキャピタルの概念そのものが地域を取り巻く予防事業の根幹をなすものだと感じました。平成30年7月現在で秋田県は高齢化率36%と超高齢社会であり、今後も高齢化は続く予想されます。当院でも高齢者の割合が高く、ソーシャルキャピタルに基づいた予防事業・地域完結型の医療・介護の連携が不可欠であり早急な責務だと感じました。専門職として医療的知識や様々な分野を活かしつつ、他機関との連携を図ることができるシステム作りが必要だという思いを強く持ちました。

秋田県だけでなく、今後の日本全体の課題に関わる重要な話題をご教示いただきました浅田先生に感謝致します。

（由利本荘医師会病院 リハビリテーション科：佐々木俊太）



特別講演 2

超高齢社会を官・民・職で乗り越える～専門職と住民の協働を目指して～

講師：大田 仁史 氏（茨城県立健康プラザ）



特別講演2では、茨城県立健康プラザ管理者の大田仁史先生が「超高齢社会を官・民・職で乗り越える～専門職と住民の協働を目指して～」と題して講演しました。大田先生は、同県内において、公募した一般住民をシルバーリハビリ体操指導士として養成し、体操指導士会を組織化している取り組みを説明されました。その養成や現場指導等には理学療法士らが関わっていて、今後は指導士らを体操指導だけでなく、見守りや傾聴、ゴミ出し、外出支援などができるように育て、地域包括ケアシステムに連結させていく計画だということです。「制度は止めたらオシマイで、危うい。ゆったりとした組織でも良いので、制度に振り回されない住民主体の活動が重要」という大田先生の力強いお言葉が印象的でした。また、ICFの活動と参加の間に集団的アプローチを取り入れて、集団の中で社会力を身に付けさせる必要性にも触れ、老健のデイケアに足を運んで集団訓練の研修を始めたことも紹介されました。自立よりも、つながることの大切さを強調していらっしゃいました。

【座長を終えて】

大変ご高名なリハ医でおはします大田先生は今年で83歳。ご見識の広さとお年を感じさせない意気軒昂さに最後まで圧倒されっぱなしでしたが、お人柄の温かさに救われました。老健のデイケアでの集団訓練指導中、隣に座っていた確か百歳のお婆ちゃんに自分の足裏を“ガン見”された上、両手で足を掴まれたエピソードを写真で紹介されている際にも、それは溢れ出ていたと思います。

（地域密着型特別養護老人ホームうぐいす城東：鈴木克昌）

一般演題で座長を務めた先生方より、総評を頂きました。

一般演題

～セッション1～

座長：齋藤 嘉彰（大館市立総合病院）

第24回秋田県理学療法士学会にて一般演題1の座長を務めました大館市立総合病院の齋藤と申します。座長を務めるのは今回が初めてで、座長依頼のお話をいただいた際は円滑な進行ができるか心配でしたが、演者の方々は時間内で発表を終えていただき、フロアの皆様からは活発的な質疑応答をいただいたことで座長の仕事を無事に務めあげることができました。この場をお借りして皆様の協力に感謝申し上げます。一般演題1におかれましては、若手から中堅、ベテランとさまざまな経験年数の先生方に演題発表をしていただきました。先生方の演題発表を拝聴して、最近学会に演題を出すことが少なくなっている私としては、このような場所で演題発表をすることの重要性和研究の必要性を再認識した次第です。日常業務で抱く疑問を解決するための一つの手段として、研究を行うことは重要であると思います。現在、自身で行っている研究を秋田県理学療法士学会で発表できるよう邁進して参りたいと思います。



～セッション2～

座長：野呂 幸希（介護老人保健施設 ケアタウンたかのす）

今回の発表内容としては卒後教育やパラスポーツへのアンケート調査、放課後デイサービスやシルバーリハビリ体操と地域活動でした。フロアからの質問も活発に行われ、今回の発表に対する参加者の興味深さを実感させていただきました。また質問内容としても建設的なものが多く、次回の研究発表につながる有意義な時間だったと思います。

今回の卒後教育のアンケートにより各施設での療法士の数の少なさや経験年数が問題というものがありました。秋田という地域特性上、施設と施設の距離も遠く、PT同士のつながりが疎になりやすい傾向にあると思います。ですが、人数が少ないからこそ責任感も強く、つながりを持つきっかけができると、より強い結束力が生まれやすいと感じています。そのためには書類のやりとりだけでなく、お互い顔の見えるつながりを増やしていくことの必要性を強く感じました。このことは放課後デイやシルバーリハビリなど地域活動でも同様に考えられます。秋田という地域をこれからも元気に盛り上げて行くため、地域を結び付き強める必要があります。また、現段階では行政への介入が難しい分野であることもわかりました。PTとしての未来を守るためにも個々が政治への興味を持ち、応援することの重要性を再認識させられました。2020年東京パラリンピックでは興味があるものの種目やルールなど認知度が低いものも多くみられました。パラリンピックは日本だけでなく、世界につながる架け橋だと思います。ぜひ、みんなで力を合わせて盛り上げていきましょう。



学会長賞・学会奨励賞受賞者発表

学会長賞： 加賀屋勇気 氏（秋田県立循環器・脳脊髄センター）

学会奨励賞：小松 梓 氏（中通リハビリテーション病院）

学会奨励賞を受賞された、**小松 梓氏**に喜びのコメントを頂いております。

学会奨励賞を頂き恐縮しておりますが大変嬉しく思います。演題の内容は私のPTとしての視野を更に広げてくれた経験でした。病院の中っていると障害をかかえながら生活している方々が地域でどう過ごしているのかを知ることは難しく葛藤がありました。

そんな中、放課後デイサービスと直接的に情報交換できた事で新たな発見や気づきが多くありましたが同時に課題もみえました。これから継続した連携をすすめるにあたりPTとして何が出来るのかを常に考え行動していきたいと思えます。引き続き皆様からのご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。そして発表にあたりご指導くださった大曲中通病院スタッフや当院スタッフに感謝申し上げます。

小松 梓（中通リハビリテーション病院）



次回は、東京オリンピックに合わせてスポーツがテーマになります！
県士会員一丸となって、秋田学会を盛り上げて参りましょう！

－表彰報告－

様々な分野でその功績が認められ、受賞された先生方を紹介します。今回はWCPTのInternational Service Awardを受賞された工藤俊輔氏、日本理学療法士協会賞を受賞された進藤伸一氏のお二人です。受賞を受けて、喜びの声を頂きました。

2019年 WCPT International Service Award

工藤 俊輔 氏 (秋田大学名誉教授)



この度思いもかけずWCPT International Service Award (国際貢献賞) を受賞することができました。受賞にあたり半田一登会長始め多数の方々にお世話になりました。有り難うございました。日本ではこれまで3人の方が受賞していますが、いずれも、希有なことで、名誉なことだと有り難く思っております。

小生は1995年からインドネシア、フィリピン、タイ、ラオス、ネパール等の発展途上国における地域に根ざしたリハビリテーション (Community Based Rehabilitation CBR) の調査や支援を行ってきました。特に、インドネシア理学療法学会での講演や研修会の実施を通じて同会と日本との関係を深めることに尽力しました。また、2005年にはタイ国立Khon Kaen UniversityからOrawan Buranruk准教授を研修生として受け入れ、地域リハについての実地研修を行いました。さらに、来日したミャンマー人の研修協力、インドネシア人フィールドワーカーのお世話等国際交流の銚 (かすがい) 役として活動してきました。これら一連の取り組みが今回の受賞に繋がったものと考えています。CBRは障がい当事者を中心とした地域を巻き込んだ取り組みです。これからも、CBRの理解がさらに深まるよう努めたいと考えています。



写真は、WCPT International Service Award 2019を同時受賞されたJennifer M Bottomley氏 (写真中央)、Annalie Basson氏 (写真右) と、工藤先生の代理で楯を受け取られた高橋哲也常務理事 (写真左) です。

また、2023年のWCPTは東京で開催することが決定されました。ぜひみなさんもこの機会に国際学会での発表にチャレンジしてはいかがでしょうか？

日本理学療法士協会賞

進藤 伸一 氏 (秋田大学名誉教授)

このたび、第48回日本理学療法士協会定時総会において、日本理学療法士協会賞というたいへん名誉ある賞をいただきました。ご推薦いただいた秋田県PT会に、心からお礼申し上げます。PTになったのは今から43年前、県内のPTのほとんどの方がまだ生まれる前のことでした。当然、就職した中通リハビリテーション病院には先任のPTがおらず、ゼロからのスタートでした。そのときいちばん助けてくれたのが、県内で働いていたPTのみなさんでした。また、秋田大学医療短大 (現医学部保健学科) 開設のとき、文部省に設置要望書を提出し、臨床実習に全面的に協力することを決めてくれたのは秋田県PT会でした。ですから、私がPTとして働いてこられたのは、職場のみなさんとともに秋田県PT会のおかげなのです。さいわい健康にめぐまれ、非常勤講師や非常勤PTは続けていますので、できる範囲で恩返しできればと思っています。



わたしたち
東京五輪に向けて理学療法士にできること...

オリ☆パラ対策委員会に注目！



秋田県理学療法士会にはたくさんの部門がありますが、2020年の東京オリンピック・パラリンピックにむけて、活動が期待されるのが、オリンピック・パラリンピック対策委員会です。突然活動を開始したオリパラ対策委員会に、疑問を持たれている方も多いことと思います。今回は、オリパラ対策委員会の活動について、委員長である福原隆志氏に紹介していただきましょう。

2020年東京にてオリンピック・パラリンピックが開催されます。開催時には選手村及び各競技会場にて理学療法サービスが行われる予定となっており、現在参加PTがIOCにより選抜されている段階です（6月現在）。また世界各国のチームが大会に合わせ、全国各地で事前キャンプを行う予定となっており、そこでは各都道府県士会のPTの活躍が期待されています。

秋田県では、これまで県士会としてのスポーツ活動におけるPTサポート（主に高校野球メディカルサポート等）には、県士会事業部の「障がい予防・スポーツ支援班」が主となり対応していました。この度、オリンピック・パラリンピック関連のPTサポートについても県士会を挙げて積極的に対応すべく、2年間限定で委員会に格上げし、オリンピック・パラリンピック対策委員会として活動することとなりました。

活動内容としては、これまで通り高校野球をはじめとした県内スポーツ活動でのメディカルサポートに加え、オリンピック・パラリンピック関連行事におけるサポート活動を展開予定です。特にパラリンピック競技である「ボッチャ」においては、世界NO.1であるタイ代表チームが大館市で事前キャンプを行い、その際に秋田県士会のPTが練習会場や宿舎においてコンディショニング等の支援を行うことが決定しています。それに合わせ、各種研修・講習会の開催も計画しています。オリンピック・パラリンピック対策委員会からのニュース発信に注目をお願いします。

日本で開催される記念すべきオリンピック・パラリンピックにおいて、秋田に居ながらPTとして関わることができる貴重な機会です。ぜひ積極的に関わることでPRICELESSな思い出を一緒に作りませんか？

☆☆☆☆障がい者スポーツ大会スタッフ大募集☆☆☆☆

秋田県障害者スポーツ大会陸上競技で行っているコンディショニングルームについて紹介します。この大会には肢体不自由、視覚障害、聴覚障害、知的障害、内部障害、精神障害の方が参加しています。コンディショニングルームの利用者は知的障害と肢体不自由の方が主で、簡単な問診の後に希望されるケアを提供します。マッサージやストレッチを希望される方が多いですが、必要に応じてアイシングやテーピングも行います。競技前の利用だけでなく、競技後も利用され結果を報告してくれる方もいます。近況についてお話したり、競技への意気込みを聞いたりと参加者とのコミュニケーションを楽しみながらケアを提供しています。毎年のように利用されている方もおり、ここで再会することも楽しみとなっています。利用者のいない時間には、テーピングやハンドリングの講義が始まる事もあり、参加者同士の情報交換の場となっています。今年は9月14日（土）に秋田市営八橋陸上競技場で行われます。今年もコンディショニングルームを設営するため、スタッフ大募集です。たくさんのご参加をお待ちしております。



↑ベテランのハンドリングを見学

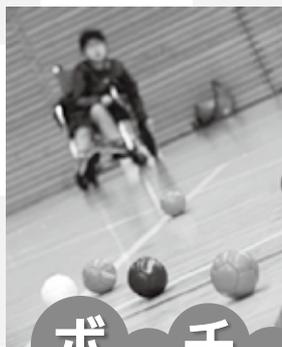


↑コンディショニング中



↑会場受付

第17回障害者スポーツ大会コンディショニングルーム
スタッフの募集は、p10の部長日よりをご確認ください！！



ご存知ですか？

パラスポーツ

ボッチャ編

パラリンピックの正式種目であり、ジャックボールに赤・青6球をいかに近づけるかを競います。ボールを投げることができなくても補助具を使い、自分の意思を伝えることができれば参加できます。国際大会ではBC1~4、日本ではOP座位・立位クラスも設定されています。日本はリオパラリンピックBC1-2チーム戦において、日本初の銀メダルを獲得しています。

今回の紹介者

鈴木郁美氏 (スポーツ・パラスポーツ理学療法研究会)

秋田県内の活動とこれからの動向

今年度より県ボッチャ協会が活動再開、秋田市では2団体が活動しています。

全脊連ボッチャチーム 第1・3土曜日 10時~15時

秋田ボッチャクラブ 第2土曜日 13時~16時

秋田県勤労障害者スポーツセンターで練習を行っていますので、気軽にご参加ください♪

2021年全国障害者スポーツ大会からボッチャが正式種目となり、それに伴って秋田県でも選手選考が始まります。また、2020年には、大館市でリオパラリンピックBC1-2チーム戦で金メダルを獲得したタイが事前合宿を行う予定となっています。



理学療法士として

中級障害者スポーツ指導員の知識を生かし、3年目から本格的にボッチャと関わり始めました。障害特性・競技特性を把握し得る理学療法士は、選手を一番理解できるスタッフではないかと感じています。選手も家族も安心してプレーに望めますし、実際に日本の協会スタッフには理学療法士が多く活躍しています。理学療法士としてできることは、練習・合宿・試合間のコンディショニング、トレーニング内容の設定、合宿時の入浴介助、セルフケア指導、選手発掘、クラス分け(評価・競技観察)等、アスリートには欠かせない内容ばかりです。

心理的発達の側面から

「聞いてくださいよ。僕がエレベーター前に並んでいるのに誰も譲ってくれなかったんです！」

この言葉に対して、どう声をかけるでしょうか。

選手は比較的重度の方であるため、両親・周囲から特別視されることが当たり前になっていることが多いと感じます。学校でも支援学校の先生から与えられた課題を行うことはできても、自ら自己判断・学習していくことは決して多くはありません。ただ、試合ではどうでしょう。相手は何が得意なのか？自分と相手のボールは何球残っていて、どの戦略をとるべきなのか？常に自分で考えて、且つ、臨機応変に対応することが求められます。ボッチャというスポーツを通じて、仲間意識や競技へ向かう姿勢、自立心等、様々な視点・場面から成長できるのではないかと感じます。

「ボッチャを始めて人生が変わった」という選手や家族がたくさんいるように、何かが変わる一つの手段としてスポーツという選択肢があり、それを繋いであげられるのは理学療法士ならではないかと思えます。まずは私たちが！パラスポーツに触れて、楽しんでみませんか？





BC1~4クラス分け表

クラシファイヤーとして、理学療法士が介入して評価をしてクラス分けをします。MMTや筋緊張検査、車いす駆動・歩行評価、アテトーゼの方には指鼻指試験・回内外試験等の失調の検査も行います。また、ボールを掴めるか、掴み方や把持力等の手指機能も評価し、加えて試合の中で実際の競技観察も行います。

2018/12/15 大館で開催されたボッチャ体験会

中級障害者スポーツ指導員資格を所有している講師という立場で参加してきました。タイから選手が一名来日し、約100名の参加者へボッチャのルール解説・簡単な審判指導を行いました。タイ王国脳性麻痺協会スポーツ協会会長、大館市長や市役所職員をはじめ、幅広い年齢の方が参加し、楽しい体験会となりました。次の日には事前キャンプに関する基本合意書調印式がキャッスルホテルで行われ、菅原会長、療育センターの佐藤理枝子先生、鈴木も参加しています。

秋田ボッチャクラブ定期練習

昨年11月・12月に行った体験会を経て継続意思を示したお子さんと一緒にクラブチームを設立し、4月から月一で練習を行っています（第二土曜日）。送迎のため家族も練習へ参加しており、家族みんなでボッチャを楽しむとともに、様々な年代の方とコミュニケーションをとれるよう配慮しています。

日本選手権 東日本予選・本戦での コンディショニングルームでの介入

2017年度～東日本予選・日本選手権にコンディショニングスタッフとして参加しています。コンディショニングスタッフは全員理学療法士であり、全国から集まっています。試合前・間・後で求められるコンディショニングも違うため、選手の訴えに沿って行っています。マットやベッドへの移乗も行いますが、本人に普段の様子を聴取し、過介助にならないよう心がけています。筋緊張を緩めすぎでしまうと普段のパワーが発揮できないため、試合前や試合間はストレッチや疼痛部位のケアを行い、試合後に来た選手に関しては全身のリラクゼーションメインに関わっています。自分がケアした選手の試合も積極的に観戦することで評価・動作分析が行えますし、同一選手の継続的な介入にもつながります。

▶障害の程度によりBC1~4の4クラスに分かれます

 <p>BC1 対象:脳性麻痺 四肢(両腕)可 歩行:× アシスタント:○ 車椅子を固定してもらい、ボールを握ってもらいなどの介助が必要</p>	 <p>BC2 対象:脳性麻痺 投球:可 歩行:× アシスタント:× 上肢での車椅子操作がある程度可能</p>
 <p>BC3 対象:脳性麻痺 非脳性疾患 投球:不可 歩行:○ アシスタント:○ 目標での投球ができないため、アシスタントによるサポートにてラップ(仮配球)も使用する</p>	 <p>BC4 対象:非脳性疾患 投球:可(足取り可) 歩行:× アシスタント:△ (追加の選手のみ) BC1・BC2と同等の四肢運動機能障害を有する(脳性麻痺、脳/ストロキアなど)</p>



理学療法 研究会



活動報告 ～多施設合同カンファレンス @ 呼吸理学療法研究会～

令和という新元号になって初の研修会を開催しました。今回のテーマは「早期離床・リハとRSTによる呼吸ケアの取り組み」と題し、5つの施設の先生から自施設の取り組み・現状などをご紹介していただきました。早期離床・リハビリテーションは昨年度の医療報酬改定もあり、今現在トピックの一つでもあることから、約40名もの先生方にご参加いただきました。本研修会では、秋田県内の近隣の病院において、その施設毎の人的・設備的環境の中で、どのように(How)、あるいはどのような(What)取組を実現しているのかの情報を共有し合うことを目的としました。私個人的には、各施設の取り組みにおける工夫点が大変参考になり、人員配置・ハード面に関する現状の問題点といった共感できる部分も多々あり、大変有意義な会であったと感じております。今後も、テーマは多様多種であれ、各施設の情報を共有し、現状の問題点を共に打開するところまで発展した会も企画できればと思っております。会員の皆さんもご興味のあるテーマであれば是非ご参加いただき、秋田県全体でレベルアップしていきましょう！

部長だより

◆研修部

新人教育プログラムに関するお問合せ先：生涯学習班 伊藤 雄平
秋田厚生医療センター リハビリテーション科
〒011-0948 秋田市飯島西袋1丁目1番1号
TEL 018-880-3000 (内線2159)
E-mail: akriha@akikumihsp.com

① 今年度の新人教育プログラム年間予定

	第2回 (8/3)	第3回 (10/5)	第4回 (12/7)	第5回 (1/18)
北部	A-3「リスクマネジメント」 B-2「クリニカルリーズニング」 B-1「一次救命処置と基本処置」 E-2「コーチングとティーチング」	A-4「人間関係および労務」 B-4「症例報告・発表の仕方」 D-3「理学療法の研究方法論」	-	-
中央	-	-	A-3「リスクマネジメント」 B-2「クリニカルリーズニング」 B-1「一次救命処置と基本処置」 E-2「コーチングとティーチング」	A-4「人間関係および労務」 B-4「症例報告・発表の仕方」 D-3「理学療法の研究方法論」

二回目以降は、開催場所が北部と中央になります。どのブロック会場に参加しても構いません。今後追加で開催場所、時間、講師のご案内を差し上げます。テーマ群C以外の履修必要単位がとれます。

② 新人教育プログラムのe-ラーニングによる受講について今年度も新人教育プログラムがe-ラーニングで受講できます。ご自宅や職場のPCから受講が出来ますので、未終了会員の方はご活用ください。

<アクセス方法>

協会HP→新人教育プログラム→e-ラーニングはこちら

③ 新人教育プログラム臨床見学について

日本理学療法士協会が認定する臨床見学受入施設で見学を行うことで、理学療法の臨床(C-1～C-5)について単位が認定されます。臨床見学制度および受入施設については協会HP(臨床見学を希望される方)をご覧ください。

<アクセス方法>

協会HP→新人教育プログラム→見学を希望される方はこちら

次回新人プログラムの詳細はこちら！↓↓

期日：令和元年8月3日(土)

会場：能代厚生医療センター 講堂

内容：8：30～ 受付

9：00～10：00 <理学療法の基礎> B-1「一次救命処置と基本処置」

富田 浩輝氏(秋田リハビリテーション学院)

10：10～11：10 <必須研修> A-3「リスクマネジメント」

齊藤 嘉彰氏(大館市立総合病院)

11：20～12：20 <理学療法の基礎> B-2「クリニカルリーズニング」

小林 一葉氏(秋田厚生医療センター)

12：30～13：30 <理学療法における人材と育成> E-2「コーチングとティーチング」

金野 税氏(秋田労災病院)

受講料：1 講義300円

備考：①事前の申し込みを7/26まで下記E-mailアドレスをお願いします。こちらから資料を添付し返信いたしますので、受信できるアドレスをお願いします。

②公益社団法人日本理学療法士協会会員証をお持ちの方は、受付にて使用しますので、必ず持参して下さい。

③新人教育プログラム修了者も受講できますが、専門・認定理学療法士を受験または更新するためのポイントには認定されません。

巻頭の告知にもありますとおり、**新人教育プログラムが大きく変わります！** 現行の生涯学習プログラムで新プロを終了できる方はぜひこの機会に受講し終了しておきましょう。

◆オリンピック・パラリンピック対策委員会

第17回障害者スポーツ大会コンディショニンググループスタッフの募集

日時：令和元年 9月14日(土) 8:30~16:00(会場設営、撤収を含む)

場所：秋田市営八橋陸上競技場

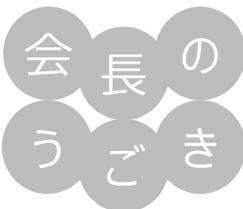
内容：コンディショニンググループで、競技前後のケアを提供する
(基本的なROMex、ストレッチ、アイシング、テーピング等)

申し込み・問い合わせ先：

①氏名、②所属、③年齢、④会員番号を記入の上、メールにて8月2日(金)までにお申し込みください。
<申し込み先>

E-Mail : asphysio2007@gmail.com (題名に「障害者スポーツ大会参加」とお書きください)

JA秋田厚生連由利組合総合病院 リハビリテーション科 近藤 圭



Cartoon by MomentCam

- 5月11日(土) 第1回未来がん医療プロフェッショナル育成プラン運営諮問委員会(秋田市)
- 5月19日(日) リハビリテーション教育評価機構研修会(東京田町)
- 5月22日(水) 第2回理事会ならびに日本理学療法士協会理事との懇話会参加(秋田市)
- 5月27日(月) 潟上市障害者総合支援法に関する審査会参加(潟上市)
- 6月 1日(土) 呼吸理学療法研修会参加(秋田市)
- 6月 2日(日) 秋田県トレーナーステップアップ研修会参加(秋田市)
- 6月 8日(土) 日本理学療法士協会定時総会(東京)
- ~9日(日)
- 6月12日(水) 転倒予防教室講師(秋田市)
- 6月15日(土) 秋田県介護予防人材確保対策事業講師(秋田市)
- 6月16日(日) 職業性腰痛予防講師育成研修会参加(秋田市)
- 6月17日(月) 潟上市社会福祉協議会評議委員会参加(潟上市)
- 6月19日(水) 秋田県体力診断事業アスリート診断講師(秋田市)
- 6月20日(木) 秋田県看護協会通常総会来賓出席(秋田市)
- 6月22日(土) 当会学会、総会、小川克己議員との懇談会、新人歓迎会参加(秋田市)
- 6月23日(日) 当会新人教育プログラム講師(秋田市)
- 6月27日(木) 秋田市在宅医療介護連携推進協議会参加(秋田市)



勉強したいけどどのテキストを読んだらいいかわからない...という方のために！様々な領域の理学療法士におすすめのテキストを紹介していただくコーナーです。

Physical Therapist の本棚

運動器編

臨床の「なぜ? どうして?」がわかる病態からみた理学療法 (外科編)

特に秋田県で(?)有名な本書は、学生から臨床経験の少ない理学療法士が活用できる内容になっている。臨床家として最低限必要な情報が記載されており、病態の理解からリハビリテーションの展開、注意点まで広く網羅されている。もちろん、臨床経験のある理学療法士にとっても最新トピックスも記されているため、一読する価値は十分にあると思います。

改訂第2版 運動療法のための機能解剖学的触診技術 (上肢)

改訂第2版 運動療法のための機能解剖学的触診技術 (下肢・体幹)

運動療法のための機能解剖学的触診 (上肢, 下肢・体幹)

運動器疾患を診るために必要なことは、皮膚の上から身体の内臓がどのような状態になっているかを推測できることです。誰でも知っている林典雄先生が執筆された本書には、その基礎となる解剖学や運動学の観点から触診方法までを詳細に知ることが出来ます。基礎なくして応用はありえません。体表から目的とする軟部組織を正確に触ることが出来なければ、状態を把握することは出来ません。ご一読いただくと明日につながる技術が得られると思います。

運動器疾患では、X線画像やCT、MRIなどさまざまな画像を参考に治療を進めていきます。理学療法士のカリキュラムでも画像診断の単位が出来るほど、臨床に必要な知識と言えます。例えば、骨折であれば「折れている or 折れていない」の判断だけでなく、受傷起点や骨以外の損傷予測、回復過程などが判断できることも必要です。本書にはX線画像の診かたを健常者からさまざまな症例まで、臨床的な視点から解説しています。

運動療法に役立つ単純X線像の読み方

運動療法に役立つ単純X線像の読み方

紹介者：渡邊基起 秋田大学医学部附属病院

ニュース編集班より

ニュース編集班班長の加賀屋です。前回のトップニュースで「秋田県初！理学療法士がいるディサービス」という見出しを付けましたが、ご紹介した元氣ジム様が、秋田県初進出という意味でございます。誤解を招く表現となってしまったこととお詫び申し上げます。

次回ニュースの原稿締め切りは8月23日（金）です。取材要望、ニュース掲載記事依頼など大歓迎です！ニュース編集班までお寄せください（ただし企画の段階でお早目に…）。

連絡・送付先：akita.ptnews@gmail.com

問い合わせ先：秋田県立循環器・脳脊髄センター 機能訓練部 加賀屋勇気

Tel：018-833-0115 Fax：018-833-2104 E-mail：kagaya-yuki@akita-hos.or.jp

学校法人 コア学園

秋田リハビリテーション学院

厚生労働大臣認定・秋田県知事認可校

平成27年4月開校
秋田県初！
理学療法士養成専門学校

理学療法学科

4年課程

40名定員



〒010-0065 秋田市茨島一丁目4-80
TEL 018-865-0188 FAX 018-964-6137 URL <http://www.core-akita.ac.jp/arc/>

●応援します！医療と福祉を確かな技術で

有限会社 共栄メディカル

●総合医療機器 ●理化学器械 ●福祉用具レンタル ●介護用品 ●尿漏れ検知機 ●業務用洗濯機

〒014-0102 秋田県大仙市四ッ屋字水木田33
〒010-0964 秋田市八橋駅前1-35 サニーハイツ102

TEL 0187-66-2123 (代)
FAX 0187-66-2139
☎ 0120-971-294

信頼の医療機器

株式会社 秋田医科器械店

代表取締役 佐藤 俊介

本社 〒010-1423 秋田市仁井田字中谷地30-2
Tel.018-839-3551(代) Fax.018-839-3546
本荘営業所 〒013-0064 横手市赤坂字大道向2-4
Tel.0182-32-8311(代) Fax.0182-32-8313
能代営業所 〒016-0014 能代市落合字上釜谷地189番
Tel.0185-52-0024(代) Fax.0185-54-7319

生体現象測定装置・FES（機能的電気刺激）
リハビリテーション機器 販売

有限会社 バイオテック

代表取締役 飯塚 清美

〒010-0041 秋田市広面字碓80-1
TEL 018-837-0161
FAX 018-837-0162

高度管理医療機器販売業 第04-000026号

有限会社 秋田ブレース

義肢 装具 コルセット 車椅子各種杖

〒019-2621
秋田県秋田市河辺諸井字野田96-5
TEL / FAX 018-882-2116

患者さんの
Quality of Lifeの向上が
テイジンの理念です。



TEIJIN

帝人ファーマ株式会社 帝人在宅医療株式会社
〒100-8585 東京都千代田区豊が関3丁目2番1号
PMD000NAC(TB)1201

(社)日本義肢協会
登録・東北119号

厚生労働省指定工場

義肢・装具・コルセット・車椅子・各種杖

株式会社 佐々木義肢製作所

代表取締役 佐々木 和憲

本社 〒980-0801 仙台市青葉区木町通二丁目3-3(木町通小学校前)
TEL (022) 274-1181(代) FAX (022) 274-1183
支店 〒010-0973 秋田市八橋本町二丁目7-1
TEL (018) 862-7204(代) FAX (018) 862-9347
〒036-8227 弘前市大字桔梗野二丁目16-12
TEL (0172) 33-1150(代) FAX (0172) 33-1153

厚生労働省指定工場

社団法人日本義肢協会登録・東北101号

(株)千秋義肢製作所

代表取締役 佐々木 雅伸

義手・義足・装具・車椅子・リハビリ用品

秋田市新屋豊町1-22
TEL 018-823-3380 FAX 018-862-5126